

○ 各教科ごとの出題方針

<p style="text-align: center;">国 語</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、中学生の実態にあった素材を広く求め、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の総合的な力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるように配慮した。特に、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力を十分みるようにした。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 国語に関する知識 漢字、文の組み立て、言葉の使い方、行書の特徴について、その基礎的・基本的な力をみるとともに相手や目的に応じて手紙を書く際に留意すべきことについて考える力をみるようにした。</p> <p>(2) 文学的な文章 自分の進路を考える上で、迷いや不安を感じている中学生が、同級生や後輩との交流によって新しい一歩を踏み出そうとしている姿を描いた文章により、登場人物の人物像、主人公の心情の変化について考え、文章の内容を的確にとらえる力をみるようにした。</p> <p>(3) 説明的な文章 日本の稲作とヨーロッパの混合農業の比較を通して、田んぼの生産力の大きさやイネの生産性の高さを説明する文章により、目的や必要に応じて文章の内容を要約したり要旨をとらえたりするとともに、文章の構成や展開、表現の特徴をとらえる力をみるようにした。</p> <p>(4) 古典 「知る」ことの本質について述べた文章（漢文）と、学問の本質について述べた文章（古文）を併せて提示し、古典の基礎的・基本的な力をみるとともに、文章の内容を的確にとらえる力、二つの文章を関連付けてとらえる力をみるようにした。</p> <p>(5) 表現 生徒会の目標について説明する場面を設定し、メモをもとにして説明原稿を作成したり、表現の工夫や効果について考えたりする力をみるとともに、調査結果の数値を根拠にして設定の理由をまとめ、具体的な事例を挙げて自分の考えを適切に表現する力をみるようにした。</p>
<p style="text-align: center;">社 会</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な学習内容についての知識、理解や、思考力、判断力、表現力及び資料活用の技能などの諸能力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野 「世界の様々な地域」に関しては、アメリカと中国の農業の比較、ブラジルの開発と環境問題についての問いで思考力、判断力、表現力を、中心からの距離と方位が正しい地図の活用についての問いで資料活用の技能をみるようにした。 「日本の様々な地域」に関しては、日本の気候や工業分布、TPPの影響についての問いで思考力、判断力、表現力を、人口ピラミッドや地形図の読み取りについての問いで資料活用の技能をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野 「古代から近世の歴史」に関しては、飛鳥時代の国政の変化や、日本と中国との関係の推移についての問いで思考力、判断力、表現力を、鎖国政策の資料の読み取りについての問いで資料活用の技能をみるようにした。 「近代・現代の歴史」に関しては、藩閥政治の特徴や昭和初期の工業生産の変化、日本の民主主義の確立についての問いで思考力、判断力、表現力を、地租改正の資料の読み取りについての問いで資料活用の技能をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野 「私たちと政治」に関しては、衆議院と参議院の比較や民主主義と人権、一票の格差についての問いで思考力、判断力、表現力及び資料活用の技能をみるようにした。 「私たちと経済」に関しては、株式会社のしくみや不況時の経済政策についての問いで思考力、判断力、表現力を、需要と供給の関係についての問いで資料活用の技能をみるようにした。 「現代社会の諸課題」に関しては、大分県の人口問題を題材として、課題解決に向けた提言についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p>

数 学	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識、理解及び技能をみるとともに、数学的な見方や考え方をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、数学的な思考力、判断力、表現力をみるため、事柄を調べる方法や手順、見いだした事実や事柄が成り立つ理由を記述させることなどにも配慮した。</p> <p>また、各領域の内容や考え方を総合的に関連付けて、考察する力などもみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 数と式 数や文字式の四則計算、二次方程式、因数分解などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解及び計算力などをみるようにした。</p> <p>また、各分野において、文字式や方程式を用いて表現し、処理する力などもみるようにした。</p> <p>(2) 図形 平面図形や空間図形では、図形の性質、三平方の定理などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、証明では、論理的に考察し、表現する力をみるようにした。</p> <p>また、街灯の光でできる影の問題では、事象を数学化し、統一的・発展的に考察し、処理する力をみるようにした。</p> <p>(3) 関数 比例、一次関数、関数などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、電気ポットで保温するときと沸かすときにそれぞれかかる電気代について考察する場面では、事象の特徴をとらえて、表やグラフを相互に関連付けて考察し、判断する力をみるようにした。</p> <p>(4) 資料の活用 ヒストグラムや代表値を用いて、資料の傾向をとらえ、説明する力をみるようにした。</p> <p>また、確率の分野では、その求め方に関する基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、樹形図などを活用して過不足なく数えあげる力をみるようにした。</p>
理 科	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識、観察・実験の技能、科学的な思考力・表現力など理科としての総合力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、学年、分野・領域のバランスをとるとともに、観察・実験の結果を分析して解釈する力、検討して改善する力、文章、図、グラフ等により表現する力を十分みるようにした。</p> <p>分野・領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 物理的領域 斜面上及び水平面上を運動する物体の実験を通して、結果を解釈してグラフに表現することで距離と時間の関係の規則性を見いだす力や、質量、高さ等を制御して、エネルギーの規則性を見いだすための実験計画を立案する力をみるようにした。また、電磁調理器の実験を通して、電磁誘導の現象と鍋に流れる電流とを関連付けて、電磁調理器の原理を説明する力をみるようにした。</p> <p>(2) 化学的領域 蒸留に関する実験を通して、沸点の違いにより混合物を分離できることを見いだすとともに、測定結果と密度や濃度とを関連付けて、混合物の成分比を考察する力をみるようにした。また、マグネシウムの燃焼実験を通して、生成する物質について、原子や分子のモデルと関連付けて、微視的に現象をとらえるとともに、質量変化の規則性をもとに考察する力をみるようにした。</p> <p>(3) 生物的領域 消化や吸収に関する実験・調査を通して、結果を分析・解釈することで、だ液がデンプンを他の糖に変える働きを見いだすとともに、消化と吸収の働きを総合的に考察する力をみるようにした。また、身近な植物の花や葉の観察を通して、観察の技能や、植物の体のつくりの共通点や相違点を見いだす力をみるようにした。</p> <p>(4) 地学的領域 太陽についての観察・実験を通して、その特徴や光のあたり方について俯瞰的、相対的な視点でとらえるとともに、太陽の南中高度と光のあたり方とを関連付けて、季節による気温の変化の要因を見いだす力をみるようにした。また、地震の記録の分析・解釈を通して、伝わり方の規則性や、初期微動継続時間と震源までの距離の関係性を見いだす力をみるようにした。</p>

中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な知識、英語による理解力及び表現力などのコミュニケーション能力の基礎を十分みことをねらいとした。

出題に当たっては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるように配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力をはたらかせてまとまりのある文章を的確に理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。

特に、表現力の問題については、場面や対話の流れを理解し英語で応答したり、与えられた情報をもとに自分の考えを英語で相手に伝えたりするなど、コミュニケーションの視点から多様な出題となるように工夫した。領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。

英
語

(1) 「聞くこと」の領域

【1】では、絵やグラフに関する情報を聞き取る力、対話の流れを理解し応答する力、まとまりのある英語を聞いて具体的な内容やテーマを聞き取る力をみるようにした。

(2) 「書くこと」、「話すこと」の領域

【2】Bでは、話し合いの流れに合わせて、自分の考えを英語で伝える力をみるようにした。

【3】では、「より多くの外国人を大分に呼ぶためのアイデア」や「中学校生活の思い出」について英語で伝える力をみるようにした。

【4】(5)では、「インターネットの使用時間を減らす方法」について、英語で提案する力をみるようにした。

(3) 「読むこと」の領域

【2】Aでは、3人の中学生の会話の内容を理解し、場面に応じて適切に表現する力や必要な情報を読み取る力をみるようにした。

【4】では、2人の中学生と先生の会話の内容や要点を、グラフ、表および英文からの情報をもとに読み取る力をみるようにした。

【5】では、卒業生の講演の概要や要点を、話の流れに即して的確に読み、読み取った内容をメモに整理する力をみるようにした。

○ 各教科ごとの入試分析

国 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点				特記事項 (誤答例等)
				A	B	C	D	
【一】	問一	(1)	72.0				○	・ (1) で「延ばす」を「伸ばす」とした誤答や、(3) で「貿易」の「易」を「易」と書き間違った誤答が多かった。乱雑な表記が多く見られた。書写の指導と関連付けて丁寧に文字を書くことができるように注意させたい。
		(2)	85.0				○	
		(3)	88.2				○	
		(4)	60.7				○	
		(5)	39.8				○	
	問二	(1)	① 文の組み立て	40.1		○	○	・ (1) ①は主語と述語の適切な照応を問う問題であったが、誤答が多かった。言葉の特徴やきまりは日常の体験と関連付けて学習することが効果的である。相手や目的、状況に応じた表現を工夫したり、書いた文章を読み返し、叙述の仕方や表現の効果などを確かめて文章を整えたりする学習が必要である。
			② 接続語	89.1		○	○	
			③ 敬語の使い方	68.8		○	○	
			④ 手紙の書き方	59.9		○	○	
		(2) 楷書と行書の特徴	63.7		○	○		
【二】	問一	(1) 語句の効果的な使い方	85.9				○	・ 問一は生徒の会話を通じて登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解する問題であった。 ・ (3) では「運動神経いいし」や「スポーツ続けなきゃ」といった本文中の会話文をそのまま用いた誤答が多かった。作品の展開と深くかかわりのある登場人物の設定について、本文中の言葉を手がかりに的確に理解することが必要である。 ・ (4) では登場人物の言葉が話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのようにかかわっているかを考える力を確認した。一つの情報を抜き出しただけの誤答が多くみられたが、解答に際しては、一つの叙述だけを手掛かりに進めるのではなく、前後の叙述を関連させて情報を集め、分類して考えをまとめることが求められる。
		(2) 登場人物の心情	3点 30.2 1点 0.5				○	
		(3) 登場人物の設定	4点 20.7				○	
			3点 11.2				○	
			2点 19.0				○	
			1点 10.8				○	
		(4) 登場人物の言動の意味	4点 19.1				○	
			3点 5.3 2点 35.2 1点 8.3				○	
	問二	表現の特徴	74.3				○	
	【三】	問一	A 段落相互の関係	2点 35.7 1点 5.4				
B 段落相互の関係			2点 51.0 1点 10.5				○ ○	
問二		文章の構成や展開	2点 25.9 1点 1.9				○ ○	
問三		文脈における語句の意味の理解	3点 32.9 2点 6.0 1点 1.2				○ ○	
問四		情報の整理	24.9				○ ○	
問五		文章の構成や表現の仕方	39.3				○ ○	
【四】	問一	返り点の知識	38.1				○ ○	・ 問一では漢文の返り点の知識について確認した。レ点を正確に使用できていない解答が多かった。 ・ 問二 (3) では「皆の事」を「全ての人」と解釈していた解答が多くみられた。語句の意味を考える際に、文脈上の意味を考えて解釈することが求められる。
	問二	(1) 表現の技法	57.9				○ ○	
		(2) 登場人物の考え	2点 18.6 1点 0.6				○ ○	
		(3) 古典に表れたものの見方や考え方	2点 16.3				○ ○	
			1点 30.0				○ ○	
(4) 古典に表れたものの見方や考え方	44.3				○ ○			
【五】	問一	情報の選択	2点 9.8 1点 34.0				○ ○	・ 問一はメモを用いて説明原稿を作成する力をみる問題であった。複数の情報を関連付けて考えをまとめる力が求められたが、メモの一つの情報のみを用いて答えた解答が多かった。 ・ 問三は、目標についてその設定理由や具体的な取組を説明するために、筋道立てて考えをまとめる力が求められた。しかし、事実と主張を連ねただけで理由付けのない解答や、生徒会執行部の立場で生徒総会で説明するという条件を満たしていない解答が多かった。設問の条件を理解し文章を整える力に課題が見られた。
	問二	表現の効果と工夫	53.5				○ ○	
	問三	論理の展開の工夫	6点 14.1				○ ○	
			5点 11.1				○ ○	
			4点 13.8				○ ○	
3点 10.9						○ ○		
2点 9.8 1点 7.0 無解答 9.9				○ ○				

【評価の観点】 A:話す・聞く能力 B:書く能力 C:読む能力 D:言語についての知識・理解・技能

2. 知識・技能について

- ① 漢字の問題では、「頒布」の正答率が低く 39.8%であった。漢字の学習では漢字一字一字の音訓を理解し、文脈に即して意味や用法を理解しながら、**語彙を増やすことと併せて行なうことが大切**である。特に常用漢字の読みの学習では、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら習得する必要がある。また、乱雑な表記にならないためにも、書写の指導と関連付けることで**字形を整え、正確に読み書きできるよう**指導することを留意したい。
- ② 漢文の返り点の知識を問う問題では、これまでの出題と異なり、レ点を複数回使用する必要があった。正答率は 38.1%であり、過去の返り点の知識を問う問題の正答率（H26：40.4%・H27：47.9%）と比べて低かった。古典に関する基礎的・基本的内容については**知識を体系化することで、古典を読む際の言語活動の中で活用できるよう**指導の在り方を工夫したい。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図（ねらい）

【二】問一(4)では、**登場人物の言葉が話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのようにかかわっているかを考える力**を確認した。

【五】問三では、受験生は、取り上げた目標の根拠となる事実を1文目に書き、その事実からどのように目標に結びつけたのかという自身の考えを2文目に書く必要があった。2文目の条件を求めたのは、**説得力ある文章を書くために、自分の考えの根拠として適切な情報を読み取り、資料が伝えたいことと、自分の考えとの関係について補足する力**をみるためである。

(2) 解答結果とその分析

【二】問一(4)の平均得点率は 42.8%であった。この設問では、登場人物の1人である「東山の叔母さん」の言葉から、3人の登場人物が、「成長することの重要性」と「成長すべきために取るべき行動」について考えたことを読み取る必要があった。しかし、1つの情報だけを抜きだしている誤答が多かった。**考えをまとめる際には、集めた情報を整理したり、分類する過程を重視したりするよう**留意したい。

そのためにも、読み取った情報を整理し、紹介する言語活動を取り入れることで、考えの広まりや深まりを生む授業展開の工夫が求められる。

【五】問三の結果については、平均得点率 42.4%（H31：34.1%）であり、無解答率は 9.9%（H31：9.0%）であった。この問題のように条件が複数ある場合、設問の条件を正しく理解し文章を整える力が必要である。**中学校学習指導要領解説では論理の展開を考える場合の基本的な組み立て方として、「はじめに自分の意見を述べ、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性、妥当性を示す」書き方が示されている。**今回の設問では2文目の条件に対して、適切に答えることができない解答が多かった。自分の考えをまとめる際は、選んだ資料を適切に引用できることが求められる。

そのためには自分の考えを文章にまとめる際に、新聞やパンフレットなどを活用し、発表用の資料を編集するといった言語活動を取り入れるなど指導の工夫が求められる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

令和3年度より完全実施となる中学校学習指導要領では、**情報と情報を関連付け整理する力や、目的や相手に応じて自分の考えをまとめ表現する力の育成**が、一層重視されている。指導に際しては、生徒の発達段階に応じて、言語活動を工夫し「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の資質・能力を育成することと併せて、**複数の領域を関連付けた単元の工夫**などが求められる。また、読書活動の充実を通して社会生活で生きて働く言語能力を育成することが求められる。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校学習指導要領に示される指導事項について理解を深めるとともに、義務教育段階での学習内容や習得状況など、**生徒の実態を把握して年間の指導計画を立案する**ことが求められる。
- ② 生徒の資質・能力を高めていくために、「付きたい力」を明確にした単元計画を立案するとともに、指導と評価の一体化が図られた実践を行っていくことが必要である。
- ③ 授業時には、生徒が見通しをもって学習活動に取り組むことができるよう、**学習課題を設定したり、言葉による記録や要約、話し合い等の言語活動を工夫したりする**ことが必要である。

社 会

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 (誤答例等)	
				A	B	C		
【1】	(1)	地図上の距離	53.6		○		<p>(1) 地図上の距離の読み取りについては、該当する国の大まかな位置を把握することが必要である。学習に際しては、大陸や州の区分、緯度や経度を活用し、地理的認識の座標軸を持つことが効果的である。</p> <p>(3) ①「農地面積」という誤答が多かった。②産業の特徴については、他地域と比較することで、特徴となる内容をまとめることが大切である。</p> <p>(5) ③グラフの増減が、需要供給曲線にどのように結びつくのか、理解できていないと思われる誤答が多かった。資料の活用については、複数の資料を組み合わせることで理解を深める学習を実践することが効果的である。</p> <p>(6) 時事的な問題については、新聞等を活用して平素から親しみ、そこから現代社会の諸課題を捉えて、多面的・多角的に考察することが大切である。</p>	
	(2)	日本の食料自給率	50.7		○	○		
	(3)	①	アメリカと中国の農業	21.6	○	○		
		②	アメリカの農業の特徴	2点 4.5 1点 34.9	○			○
	(4)	ブラジルの農業の変化	59.5	○	○			
	(5)	①	促成栽培	44.9		○		○
		②	日本各地の気候の特徴	59.0	○			○
		③	需要供給曲線	44.6	○	○		
	(6)	①	TPPの内容	17.7				○
		②	TPPによる輸出体制の変化	2点 0.5 1点 14.1	○			
【2】	(1)	弥生時代の遺物	69.8		○	○	<p>(2) 他国との交流については、国内の政治や経済に与えた影響について、時代ごとに比較することが効果的である。</p> <p>(3) (6) 日本や世界の各地で発生した事象については、地図上で位置を確認し、なぜその地域で発生したのかを考察することが必要である。</p> <p>(4) 歴史的事象に関する資料については、多面的・多角的に考察することで、資料の持つ歴史上の意義に気付くことが大切である。</p> <p>(5) 時代の特徴を示す語句については、名称を覚えるだけでなく、意味について理解することが大切である。</p>	
	(2)	①	飛鳥時代の国内体制の変化	2点 1.2 1点 11.2	○			
		②	各時代の中国との交流	28.8	○			
	(3)	①	平安時代の戦乱	37.4		○		○
		②	元寇の影響	63.0	○			○
		③	応仁の乱	58.9				○
	(4)	鎖国政策の変遷	34.3	○	○			
	(5)	藩閥政府の特徴	18.1	○	○			
	(6)	冷戦の影響	28.2		○	○		
	【3】	(1)	民主主義確立の歴史	46.2				○
(2)		日本の選挙制度の変遷	48.1	○				
(3)		間接民主制	27.0			○		
(4)		①	地方交付税交付金	59.5		○	○	
		②	地方交付税の配分方法	59.8			○	
(5)		政府の景気回復策	70.0	○				
(6)		社会保障の4つの柱	66.2			○		
(7)		衆議院と参議院の比較	72.3			○		
(8)	Y	一票の格差	47.6		○	○		
	Z		22.0	○				
【4】	(1)	株式会社の仕組み	82.0			○	<p>(1)～(6) 歴史上の人物については、活躍した時代的背景と地域を関連させながら、その果たした役割や生き方を具体的に理解することが必要である。</p> <p>(3) 工業地域の特色については、自然及び社会的条件によって地域差が見られることを踏まえ、地域的特色を比較し、まとめることが効果的である。</p> <p>(6) 地図の活用については、地形図や市街図を用いて、見知らぬ地域を地図を頼りにして訪ね歩く技能を身に付けることが必要である。</p>	
	(2)	富岡製糸場	68.2			○		
	(3)	日本の工業地域	44.8	○	○			
	(4)	1920年前後の出来事	51.1	○				
	(5)	昭和初期の工業生産	2点 11.1 1点 25.2	○	○			
	(6)	①	地租改正の内容	2点 54.2 1点 5.2	○	○		
		②	地形図の読み取り	42.2		○		
【5】	(1)	人口に関する資料	55.4		○		<p>(2) 戦後の日本の経済の発展については、背景や影響を考察した上で流れを理解することが大切である。</p> <p>(4) 諸課題の解決については、地理的分野、歴史的分野との関連を図り、よりよい社会を築いていくために解決しなければならない様々な課題について探究し、自分の考えをまとめることが効果的である。</p>	
	(2)	1970年代の日本の特徴	26.5			○		
	(3)	高齢化に関する資料選択	42.4	○	○			
	(4)	課題解決に向けた構想	48.8	○				

【評価の観点】 A：社会的な思考・判断・表現 B：資料活用の技能 C：社会的事象についての知識・理解

2. 知識・技能について

- ① 基礎的・基本的な知識を問う問題は、文章中の穴埋めなど語句記述問題の平均得点率が 51.0%と、全体平均 (44.8%) よりも高い結果となった。社会的事象について理解するためには、基礎的・基本的な知識を確実に習得させることが必要であり、習得にあたっては、文章から該当する語句を答えさせるだけでなく、**語句の意味について説明させる指導**が効果的である。また、誤字による減点が多かった。教科書の太字となっている語句については、正しく漢字で書けるようにしておきたい。
- ② 資料を活用する技能を評価する問題は、平均得点率が 46.5%と全体平均よりもやや高い結果となった。出題に当たっては、【2】(4)や【4】(6)のように、読み取った内容からその内容や時期を考察したり、【1】(5)のように、資料の読み取った内容から別の資料と関連付けたり、【5】(3)のように、必要な資料を選択したりと、資料を読み取ることに加え、活用や選択の場面を意識した。日常の指導に当たっては、さまざまな資料を授業で扱うとともに、資料の読み取った内容について、「なぜそのような内容となるのか」という**因果関係について考察させる指導**を行うことが効果的である。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

中学校社会科では、資料を読み取り、事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てることを各分野共通の目標としている。例えば【1】(6)で、TPPの特徴を踏まえて、その内容が「なぜ輸出体制の変化と結びつくのか」を考察し、適切に表現する力を問うたり、【5】(4)のように、社会的事象に関する特色や事象間の関連を適切に思考・判断し、課題解決に向けた取組について構想を立て、表現する力を問うたりする文章記述問題を7問出題している。また、資料に当てはまる内容を思考・判断する力を問う記号選択問題を4問出題している。

(2) 解答結果とその分析

文章記述問題の平均得点率は 28.3%と全体平均よりも低い結果となった。その要因としては、資料を適切に読み取れていないことや、資料と関連した既習知識を引き出せないことがあげられる。適切に表現するために、**どのような要素が必要か判断する力と、既習知識と結びつけ、筋道を立てて説明する論理的思考力**が必要である。また、記号選択問題の平均得点率は 48.4%であり、全体平均よりもやや高い結果となった。資料から読み取った内容と、選択肢を適切に組み合わせるためには、記述問題と同様に、知識を結び付ける論理的思考力が必要である。日常の授業における取組の工夫が求められる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 知識注入型の授業に陥ることなく、生徒が疑問を持ち「解決したい」「話し合いたい」と思えるような学習課題を設定し、事象を多面的・多角的に考察し、判断するとともに、表現する過程を重視した**問題解決的な学習を工夫**する必要がある。そのためには、単元全体を見渡して授業を構想することが大切である。
- ② 単元指導計画を作成する際には、単元ごとに「身に付けさせたい力」を整理し、それを毎時間の授業にどのように位置付けるかを明確にすることが大切である。また、問題解決的な学習をするために**基礎的・基本的な知識や地図・グラフ等の資料を活用する技能を確実に習得**させることが必要である。
- ③ ゴールをイメージして授業を組み立てることにより、資料や発問の生成が可能になることから、最終的にどのような言葉を生徒から引き出したいのかをあらかじめイメージしておくことが大切である。**評価問題をあらかじめ作成**した後、授業を構想することも効果的である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容について理解し、その内容を**生徒がどれだけ身に付けているのか実態を把握**した上で、指導計画を作成することが必要である。
- ② 授業時に発問を投げかけたり、資料を読み取らせたりする機会を増やすことと、説明や発表の場を設けるなど**言語活動を充実させる**ことが必要である。
- ③ 中学校社会科の学習を踏まえ、**各科目の特質と相互の関連性を考慮**しながら、世界や日本の歴史的事象や地理的事象、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり自分の考えを論述したりすることを通して、社会的事象についての見方や考え方を成長させるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視することが必要である。

数 学

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 ([]内は誤答例)		
				A	B	C			
【1】	(1)	① 正の数と負の数	98.4		○		①～④の基礎的・基本的な計算の技能は概ね身に付いている。 ⑤では、分母の有理化、平方根の中の整理ができていない解答が目立った。 計算の技能を学ぶ際には、概念や原理・法則を適切に使うことで、数学的な処理の仕方が導き出されることを理解する学習活動が効果的である。 ② [-12]		
		② 正の数と負の数	87.9		○				
		③ 文字式の計算	88.2		○				
		④ 文字式の計算	91.7		○				
		⑤ 平方根の計算	79.2		○				
	(2)	二次方程式	79.6		○		解の公式を用いて計算したが、平方根の処理ができなかった生徒が多かった。二次方程式を学ぶ際には、因数分解を用いるのか、解の公式を用いるのかを判断する学習活動が効果的である。 $\left[\frac{-7 \pm \sqrt{121}}{2} \quad x = -2, 9 \right]$		
	(3)	角と平行線	90.6		○		同位角や錯角の關係に着目したり、補助線を引いたりするなどして、様々な解法を発見し、考察する学習活動が必要である。		
(4)	式の値	67.0		○		因数分解してから代入することで、容易に値を求めることができる。複雑な計算をする際には、工夫して求めることができないか常に意識することが必要である。			
(5)	円錐の体積	44.2		○		π が欠落した解答が多かった。面積や体積など、公式を確実に理解する必要がある。 [12]			
(6)	平面図形の作図	2点 53.8 1点 22.9		○		基本的な作図の方法が、どのような場面で活用されるかについて考察する場面を設定することが必要である。 [線分AB, ACの中点を結ぶ]			
【2】	(1)	① 場合の数	70.9		○		(1)では樹形図を利用し、過不足なく教え上げることが大切である。(2)は代表値を用い、道筋を立てて説明する力が求められる。具体的な数値を用い、根拠を明らかにして表現する学習活動が必要である。 (2)① [0.25%] ② [中央値が13.5冊なので] [最頻値を利用] [はなこさんは20番以内に入っているから]		
		② 確率	43.0		○				
	(2)	① 相対度数	64.6			○			
		② 代表値の利用	36.8	○					
【3】	(1)	関数 $y=ax^2$ の式の決定	83.1			○	関数の基礎・基本の習得に加え、図形と関数とを関連付けて学習することが高等学校での学びに繋がる。(3)は平行四辺形の性質に基づき変化の割合を利用する問題であった。解決に向けて図形にどのような性質が手掛かりとなるか考察したり、それを説明したりする学習活動が必要である。		
	(2)	変化の割合	42.8			○			
	(3)	変化の割合の利用	18.8	○					
【4】	(1)	一次関数の決定	72.8			○	問題文の情報を正確に読み取った上で、問題文や表、図をもとに時間と電気代の関係をグラフで表し、その関係性を読み解く力が求められる。各単元において、日常生活や社会の事象を、生徒が数理的に捉えるような学習活動が求められる。 (2) [変域 $x \geq 1$ のグラフになっていない]		
	(2)	一次関数のグラフ	3点 13.6 2点 28.3			○			
	(3)	連立方程式の利用	18.1	○					
【5】	(1)	① 平行線と線分比	64.4			○	様々な実験を繰り返すことで、解決の糸口を見いだしたり、法則性を見いだしたりすることが大切である。また、立体を様々な方向から多面的・多角的に捉えて考察する学習活動が必要である。		
		② 台形の面積	3.6			○			
	(2)	空間図形の相似比	4.0	○					
【6】	(1)	三角形の相似の証明	3点 41.4 2点 5.6 1点 15.5			○	(1)の三角形の相似の証明においては、どの三角形なのか、どの弧に対する円周角なのかを示し、根拠を明確にした上で証明することが大切である。得られた結果を用いて考察する学習だけでなく、求めるものに対して、何が分かればよいか、どこに着目すればよいかなど、その解決の過程で必要な要素を自ら見いだす学習活動も必要である。		
			(2)	① 三角形の相似比	30.6				○
				② 三角形の面積比	0.4	○			

【評価の観点】 A：数学的な見方や考え方 B：数学的な技能 C：数量や図形などについての知識・理解

2. 知識・技能について

- ① 「数と式」については、数や文字式の四則計算の基礎的な知識・技能は概ね身に付いている。平方根を含む計算や方程式の解法の手順において、確実な定着を図ることが必要である。
- ② 「図形」については、受験生が苦手としている分野であり、今年度の入試においても同様であった。立体を様々な方向から多面的・多角的に捉えて考察する学習活動が必要である。
- ③ 「関数」については、基礎的な知識・技能は概ね身に付いている。日常生活や社会の事象に関する問題では、文章や表から必要な情報を読み取り、活用する学習活動が求められる。
- ④ 「資料の活用」については、場合の数は過不足なく数えることはできている。しかし、根拠を明らかにして説明する力には課題がある。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

身近な事象を表やグラフを活用して判断する問題や、図形についての基礎的な知識・技能を活用し、総合的に考察し、処理する問題を通して、数学的な思考力・判断力・表現力等をみることにした。

【2】(2)「平均値に関する誤った捉えを、ヒストグラムを用いて正しく説明する問題」では代表値を用いて、資料の傾向をとらえ、説明する力をみるようにした。

【4】「電気ポットで保温するときと沸かすときにそれぞれかかる電気代について考察する問題」では、事象の特徴を捉え、表やグラフを相互に関連付けて考察し、判断する力をみるようにした。

【5】「街灯の光でできる板の影の長さや大きさを考察する問題」では、事象を数学化し、統合的・発展的に考察し、処理する力をみるようにした。

(2) 解答結果とその分析

【2】(2)は、資料をもとに、代表値を用いて道筋を立て説明することが不十分であった。代表値の意味を理解するだけでなく、根拠を用いて説明し伝え合う活動を重視することが大切である。

【4】は、問題文や表、図をもとに条件を整理して、時間と電気代の関係のグラフを比較することができない受験生が多かった。各単元において、日常生活や社会の事象と関連付けた題材を取り扱い、生徒自身が思考して、問題解決する場面が求められる。

【5】は、街灯の光でできる影の長さや大きさの変化を、具体的な数値から一般化し、立体の相似を用いて、板の長さや面積を考察する問題であった。(1)①のように具体的な数値で線分の長さを求めることはできるが、文字を用いた(1)②はできない受験生が多かった。1年生で学習する文字式は、事象を一般化した際に様々な場面で活用されることを踏まえて学習する必要がある。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「数と式」については、全領域と深く関わり日常生活や社会においても様々な場面で使われている。そのため、**計算方法を考察したり、具体的な場面で活用したりすること**などを通して、基礎・基本の定着が求められる。文字式の活用においては、見通しを立て、何の数量をどのように表すのか等、丁寧な指導が大切である。
- ② 「図形」については、**立体模型やICT機器の活用など、観察・操作・実験等の活動**を通して、図形を考察することが必要である。図形の性質や関係を**直感的に捉え**、数学的な推論により**論理的に考察し****数学的に表現する力**は、中学校数学に限らず、高等学校や様々な分野での学習や活動において重要な役割を果たすものであることから、確実に育成を図ることが必要である。
- ③ 「関数」については、基礎的・基本的な内容の習得とともに、**表、式、グラフなどを相互に関連付けて考察し、表現する力**を育成することが大切である。また、日常生活や社会の事象を関数と結び付けて捉え、その考察の過程や結果を数学的な表現を用いて説明する場面を設けることが大切である。
- ④ 「資料の活用」については、目的に応じて**資料を収集して処理し、その傾向を捉え、考察し表現する力**を身に付けさせていくことが大切である。急速に発展しつつある情報化社会において、このような力が、これからの社会において重要となるため、その基礎を中学校数学で確実に育みたい。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中央教育審議会答申が示した「算数・数学の学習過程のイメージ」は、幼小中高を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指している。単元を見通し、内容の系統性を重視しつつ、**中学校での指導内容を十分理解**し、定着状況を把握、確認した上で指導する必要がある。
- ② 授業においては、単元を通して、どのような力を身に付けさせたいかを明確にし、知識・技能を習得しながら、**思考力・判断力・表現力等を育成**することが大切である。生徒の発言を拾い上げながら、数学的な見方・考え方のよさを見いだす力や得られた結果を基に批判的に検討し、**体系的に組み立てていく力**、既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力を育成することが大切である。
- ③ 単元においては、**日常生活や社会の事象**と関連付け、それらを数理的に捉えることによって数学的な問題を見いだしたり、**事象を数学化する力**を養い、**主体性を持って様々な問題解決に取り組む態度**を育成したりすることが大切である。

理 科

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	分野	評価の観点			特記事項 (誤答例等)	
					A	B	C		
【1】	(1)	沸騰石を入れ振る理由	80.1	生物	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(1) 「試験管が割れる」「沸騰を防ぐ」の誤答例が散見された。観察や実験の際には操作の目的を考える学習活動が必要である。 (4) すい液中の消化酵素を選べていない誤答があり、図から読み取り、判断する力に課題が見られた。消化酵素のはたらきを指導する際は、分子の大きさの変化と関連付けて、モデル図を用いて考えたり、説明したりする等の学習活動が必要である。 (5) 「空気に触れる面積が多くなる」「表面積が多くなり酸素交換の効率がよくなる」等の誤答があった。肺のガス交換のしくみと混同しており、小腸の「柔毛」と肺の「肺胞」のはたらきの違いを表などを用いて整理する学習活動が効果的である。	
	(2)	デンプン分解の比較	80.3		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
		糖の生成の比較	76.9		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	(3)	だ液の性質	61.3		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	(4)	a	デンプンの消化酵素		28.4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
		b	タンパク質の分解酵素		36.0	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	(5)	消化酵素のはたらき	79.7	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	(6)	小腸の柔毛	78.0	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
【2】	(1)	太陽の特徴	92.9	地学	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(3) 視点を地球の外に置き、地軸の傾きや太陽光を示した模式図から南中高度を示す角度を選ぶことに課題が見られた。季節の変化が生じるしくみを考える際には、地球儀を用いたモデル実験やシミュレーション等を活用して、地軸の傾き、公転面、南中高度、昼夜の時間等を視覚的に捉える学習活動が効果的である。 (5) 「面積が広く光の量が多い」のように、面積が同じ板であることを捉えられていない誤答が散見された。考察する際には結果の要因について個人で考え、意見交換や議論により、自分の考えを改善し、より妥当なものにしていく学習活動が効果的である。 (6) 「南中高度が高い」等の誤答があった。(5)の実験で考察したこと以外を多面的・多角的に考察する力が求められる。	
	(2)	黒点の大きさの比較	16.9		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	(3)	①	北緯を示す角		46.3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>
		②	南中高度を示す角		38.1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>
		(4)	白夜が生じる地点		33.6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	(5)		太陽高度による光のあたり方の違い		2点 17.8 1点 32.7	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
			夏の気温が高い理由		59.2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
【3】	(1)	液体を分離する方法	75.0	化学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	(4) 「リトマス」紙という誤答が散見された。炭酸水素ナトリウムを分解する実験で使用する塩化コバルト紙の用途や色の変化について、酸性等の液性を示すリトマス紙との違いを正しく理解した上で、他の実験にも活用する等の学習活動が求められる。 (5) ①「0.81」「0.8」等、適切に四捨五入していない誤答があった。密度の意味を理解した上で、的確に計算する力が求められる。 (6) 既存の知識を基に推測し、実験結果を基に判断していないと考えられる誤答があった。実験値から分析、解釈する力が求められる。	
	(2)	ガスバーナーの使い方	77.7		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	(3)	混合物と純物質の違い	36.3		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	(4)	水の存在の確認方法	44.6		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		
	(5)	①	密度の計算		55.9	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
		②	質量パーセント濃度		48.7	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	(6)	得られた混合物の分析	43.5	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
【4】	(1)	力の図示 (斜面)	1.2	物理	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(1) 斜面上の誤答例  水平面の誤答例  運動方向に力がはたらく誤答が散見された。作用点、方向等を適切に捉え、つりあいの規則性を見だし表現する学習活動が求められる。 (2) 独立変数に対する従属変数の関係性を適切に捉え、プロットした点を直線で結ぶか、曲線で結ぶかを判断する必要がある。 (4) (5) 仕事の定量的な定義の理解に加え、単位を適切に換算する力や、文字を適切に使用する力も求められる。 (6) 「木片の移動距離は「材質」「大きさ」にも依存するのではないだろうか」等、素朴な疑問に基づき課題を設定し、検証可能な実験計画を立案する等、探究を自ら遂行する学習活動が求められる。	
		力の図示 (水平面)	29.3		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	(2)		移動距離と時間の関係のグラフ		2点 51.9 1点 29.5	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
			(3)		a	水平面上の速さ	55.3		<input checked="" type="checkbox"/>
		b	56.1			<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
		(4)	球が木の物体にした仕事		9.9	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	(5)	エネルギーと仕事の関係	89.9	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	(6)	新たな疑問を解決する実験計画立案	2点 45.3 1点 19.6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
【5】	(1)	①	初期微動継続時間	82.1	地学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	③地点Aを震源と考えた「15秒」の誤答があった。地震に関しては、基礎的な知識の理解を深めるとともに、緊急地震速報の仕組みやそれらを活用して地震の記録から分析し、解釈する力が求められる。
		②	震源からの距離	49.3		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
		③	緊急地震速報	23.3		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	(2)	①	ルーペの使い方	79.3	生物	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	③効果的にICTを用いて複数の情報を整理しながら分類表を作るなど、被子植物のなかま分けについて知識に加え、暗記するだけでなく、総合的な理解を図る学習活動が必要である。
		②	被子植物の特徴	84.7		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
		③	被子植物の分類	71.7		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	(3)	①	酸素による酸化	67.2	化学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	③原子や分子と関連付けて物質の変化を予想する学習活動や、化学変化における物質の質量を測定する実験を行い、物質の質量の間には一定の関係があることを見だし表現する学習活動が大切である。
		②	二酸化炭素による酸化	50.4		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
		③	化学反応の生成物の計算	8.3		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	(4)	①	電力量と抵抗の関係	14.9	物理	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	①抵抗の大きさが異なる金属線等に、電流や電圧の大きさを変えて熱を発生させる実験を行い、熱の量の違いに関する規則性を見だし学習活動が求められる。 ③実験結果と電磁誘導の概念とを関連付けて分析・解釈する力が求められる。日常生活の現象や、もののしくみなどを課題にし、それらを既存の知識や概念と関連付けて探究する学習活動が効果的である。
c			電磁調理器の現象名	59.7		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
②		d	電流の発生	2点 0.9 1点 11.1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
		③	電磁誘導の利用	9.3		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

【評価の観点】 A: 科学的な思考・表現 B: 観察・実験の技能 C: 自然現象についての知識・理解

2. 知識・技能について

- ① 基本的な知識を問う問題は正答率が高く、定着している。しかし、【2】(3)、【3】(4)、【5】(4)③については、緯度や南中高度、塩化コバルト紙等の試薬、電磁誘導に関する知識の定着に課題がある。実際に**実験計画を考えさせたり、モデルを用いて説明させたり**する等の学習活動を通して、基本的な知識の定着を図ることが大切である。
- ② 【4】(1)では、物体にはたらく力を適切に図示できていない。また、【4】(2)では、プロットした点を直線で結ぶ誤答が目立った。力を図示する技能や、実験結果を整理して**グラフにする技能**が、目に見えない現象を捉えて**科学的概念を形成**することや、**規則性を見いだし表現する力**につながることを意識させたい。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

【1】(4)、【2】(5)では、**複数の資料や実験結果を整理し、分析して解釈する判断力**を、【4】(6)では、**新たに生じた疑問を解決する実験計画を立案して表現する力**を、【5】(4)②では、**実験結果を比較し、科学的な概念を関連付けて考える思考力**が求められている。

(2) 解答結果とその分析

正答率は、【1】(4) aは28.4%、bは36.0%、【2】(5)は17.8%、【4】(6)は45.3%、【5】(4)②はcが59.7%、dが0.9%であった。生命を維持するはたらきを考える学習では、**観察結果や資料等と関連付けて考察**させた上で知識を習得させることが必要である。太陽の見え方を考える学習では、**観察記録などの資料を基に、地球の自転と関連付けたりモデル化したり**して考察することが必要である。観察や実験を行う学習では、**仮説を検証できる実験計画を考えたり、表現したり、振り返ったり**するなど、**探究の過程を自ら遂行する学習活動**が求められる。電磁調理器のしくみを考える学習では、**実験結果を分析、解釈し、既存の知識を関連付けて導きだした自らの考えを表現**することで、**概念形成を確かなもの**にすることが期待できる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 自然の事物・現象から**問題を見いだし課題を設定**する学習活動の充実が求められる。その際、教師が課題を提示するだけでなく、**生徒自ら**が課題を設定して探究する学習活動を充実させることが大切である。
- ② 予想や仮説を立て、検証するための**観察・実験を計画**する学習活動の充実が求められる。その際、**課題解決の見通し**が明確になる実験を計画できるようにすることが大切である。
- ③ 観察・実験の結果を**分析して解釈**する学習活動の充実が求められる。その際、観察・実験の結果を**予想や仮説と比較**したり、習得した**知識・技能と関連付け**たりして説明できるようにすることが大切である。
- ④ **自分の考えをもち、自分や他者の考えを検討して改善**する学習活動の充実が求められる。その際、個人で考えた後、**グループで考えを共有**する等して、**対話を通して改善**できるようにすることが大切である。
- ⑤ **日常生活や社会との関連**を図り、理科を学ぶことの**意義や有用性を実感**する学習活動の充実が求められる。その際、様々な原理や法則が**科学技術を支えている**ことに気付けるようにすることが大切である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中高の円滑な接続を意識した上で、生徒の実態等をふまえて中学校の内容を適宜取り入れ復習した上で学習を進める等、**振り返りの機会を工夫**する。
- ② 獲得した原理や法則の検証実験や、自然の事物・現象に対して問題を把握し、仮説を立て、検証計画を立案し、実験を行い、結果を分析して解釈し、結論まで導出するような探究の過程のそれぞれにおいて、**理科の見方・考え方を働かせて科学的に探究するための資質・能力**を育成する。
- ③ 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、新たに獲得した資質・能力に基づいた理科の見方・考え方を、**次の学習や日常生活における課題の発見や解決の場面で働かせている**か等の観点から、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ④ 教員との対話、生徒同士の対話、先哲の考えを手がかりにした活動等によって、意見を交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、**自分の考えをより妥当なものにする学習活動**を取り入れる。

英 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項 目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 (誤答例等)	
				A	B	C		
【1】	A	1番 説明に合うもの	92.4		○		複数の情報を正確に聞き取り、整理する力が必要である。	
		2番 説明に合うグラフ	72.0		○			
	B	1番 相手の発言に対する応答	65.7		○		対話を続けるために、場面に応じて適切に応答するなどの力が必要である。	
		2番 相手の発言に対する応答	56.0		○			
	C	1番 Whatで始まる疑問文に対する答え	93.4		○		何を尋ねられているかを理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。また、複数の情報をまとめたり、英文の主題を聞き取ったりするなど情報を整理する力も必要である。	
		2番 How manyで始まる疑問文に対する答え	65.7		○			
		3番 Whatで始まる疑問文に対する答え	52.3		○			
4番 スピーチの主題に対する聞き取り		61.3		○				
【2】	(1)	㉔ お知らせに対応した語の表現	60.6			○	表現する際には、話すだけでなく正確に書く力も必要である。	
		㉕ お知らせに対応した語の表現	46.2			○		
	A	(2) 主語+動詞+how (など) to 不定詞を使った表現	82.9			○	基本的な文法項目の定着については、コミュニケーションを実際に行う言語活動の指導が効果的である。	
		(3) 英文から判断されるボランティアの組み合わせ	57.1			○		
	B	① 英文の読み取りと主張の選択	53.9			○	話の内容に対して、書き手の主張やその理由を正確に読み取る力が求められる。また日頃から、感想や、賛否及びその理由を「話す」「書く」などの統合的な学習活動を行うことが効果的である。	
		② 英文の読み取りと主張の選択	48.1			○		
		③ 英文の読み取りと主張の選択	57.4			○		
④ 英文の読み取りと主張の選択		39.9			○			
【3】	(1)	より多くの外国人に訪問してもらう方法に関する自分の考え	6点 11.1 5点 4.4 4点 33.0 無記入 26.2			○	○	会話の流れをおさえ、自分の考えを書く力が求められる。また日頃から、文と文のつながりを意識して書く、具体的な考えを生み出すなどの学習活動を行うことが必要である。
	(2)	中学校時代の思い出に関する具体的な内容	6点 8.1 5点 7.1 4点 51.1 3点 0.2 2点 5.2 無記入 15.8			○		身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の気持ちや感想を加えて書く力が求められる。家庭や学校などの日常生活や行事などの体験を書かせる活動に積極的に取り組むことが必要である。
【4】	(1)	How longで始まる疑問文に対する答え	85.8			○		グラフ、表及び英文から、必要な情報や書き手の伝えようとするなどを正確に読み取る力が求められる。日頃から、複数の素材を読み取り情報をまとめたり、聞き取ったり、読み取った内容について報告したりするなどの学習活動に取り組むことが求められる。
	(2)	(b) 表と英文の読み取り	79.3			○		
		(c) 表と英文の読み取り	81.7			○		
	(3)	下線部soが示す内容	65.5			○		
	(4)	グラフ、表及び英文の読み取り	55.9			○		
(5)	インターネットの使用時間を減らす方法への助言	3点 10.9 2点 3.0 1点 15.8 無記入 35.5			○	○	言語活動を行う際に、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じ、「ある意見に対して助言をする」というような、自分の考えを形成し表現するなどの具体的な課題を設定する工夫が求められる。	
【5】	(1)	英文の内容理解	59.4			○		日頃から、一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、あらすじや話の中心となる事柄などを正確に読み取る力が求められる。また、正確な読み取りを促すための発問や評価問題の工夫が求められる。
	(2)	英文の内容理解	70.5			○		
	(3)	英文の内容理解	39.3			○		
	(4)	英文の主題の読み取り	53.5			○		
	(5)	① 英文の要約	48.5			○		
② 英文の要約		43.7			○			

【評価の観点】 A：外国語表現の能力 B：外国語理解の能力 C：言語や文化についての知識・理解

2. 知識・技能について

① 外国語表現の能力

基本的な語彙、表現を正確に書く力が十分に身に付いていない。基本的な表現、文構造など運用度の高いものについては、コミュニケーションを実際に行う中で、繰り返して活用することを通して定着を図ることが求められる。

② 外国語理解の能力

「聞くこと」、「読むこと」に関しては、話のあらすじや話の中心となる事柄を聞き取ったり、読み取ったりする力が求められる。意見とその理由及び具体例という論理的に構成する力がまだ十分に身に付いていない。そのために、指導においては、発問の工夫をしたり、様々なタイプやジャンルの英語に多く触れさせたりすることが効果的である。

③ 言語や文化についての知識・理解

生徒が表現する際に必要な語彙については、話すことができるだけでなく、正しく書く力も求められる。基本的な文構造については理解しており、今後の授業においては、実際のコミュニケーション活動を通して「言語の使用場面」に応じた表現を使用するなど一層の指導の工夫が求められる。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図（ねらい）

思考力・判断力・表現力を問う設問については、【2】～【5】の中に配置したが、ここでは、特に【3】について述べる。

【3】では、言語活動を充実させた中学校での指導を踏まえた上で、「書くこと」について出題した。生徒が自分の意見や体験を、まとまりのある英文で表現することができるように、指定語数を倍増した。(1)は、大分で開催されたイベントを素材として、「より多くの外国人に訪問してもらう自分のアイデア」を書く設問であった。(2)は、「中学校での体験・行事についてその時の自分の気持ちや感想を加えて書く」設問であった。

(2) 解答結果とその分析

(1)は、自分の意見、その理由そして具体的内容の説明など、一文で表現することにとどまらず、日頃からまとまりのある英文で話したり、書いたりする経験が求められる。(2)は日頃から家庭や学校など身近な話題について、自分が伝えたいことを文と文のつながりを意識しまとまりのある英文で書いたり、発表したりする経験が求められる。そのような学習活動を日頃から複数回繰り返して行い、必要な語句や表現を正しく使えるように定着させる必要がある。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

中学校では、**付けたい力を明確**にし、技能統合的な学習活動を通して、**コミュニケーションを図る資質・能力**を養うことが求められる。そのために、**CAN-DO リスト**を生徒と共有し、見通しをもった学習を促すことも必要である。

- ① 既習事項が自分の表現として定着するように、「やりとり」を通じた活動に取り組ませる。
 - ・ 聞いたり読んだりして得た情報や知識等を、自らの体験や考えと結び付けて感想や賛否、またその理由についてペアやグループで伝え合う活動をさせる。
 - ・ 相手を意識して自分の考えや気持ち等を正しく伝えたり、それについての意見を述べ合ったりする活動をさせる。
- ② 「読むこと」の指導においては、英文を与える前に、生徒の既有知識を活性化させるための工夫をしたり、手がかりとなる語句や表現に気づかせるような発問の工夫をしたりするなど、正確な読み取りのための支援を行う。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

高校の授業では、高等学校学習指導要領の趣旨と中学校での学習とのつながりを理解した上で、以下の点に留意した指導が求められる。

- ① 年間、学期及び単元を見通して、「生徒が何ができるようになるか」を設定して、授業においては**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた言語活動**を授業に取り入れることが求められる。
- ② 中学校との学びのつながりを意識するとともに、高等学校においても**支援や語彙・表現など段階に応じた指導**を心がけ、知識・技能を繰り返し活用することで定着を目指すことが求められる。